

處へ行て逢ふてやつて下され、而して娘の心持を聞いてやつて下され」「宜しうござります……サア三千圓に取付いたぞ、この上行かんやなんて吐しやがつたら、胸倉締上げて……」「コレ／＼、そんな亂暴な事をしてはいかんで」「イエ、これは別の事でござりまする、御心配なふ……エー御免遊ばせませ」と離座敷へ参りますると、絹布の夜具へくるまつて、スヤ／＼お寝みになつて居る「エーお嬢さん」「オウ、あんた甚平さんだすか」「へい、あんたさん、御病氣でおますなア、何う遊ばしたんだす」「アノ甚平さん、よう來て呉れてやつた、早速聞きたいのは大阪の若旦那……」「どつこい皆まで仰しやるな、その譯があればこそ、私が頭へ草鞋を載せてやつて來たんだす、實はお嬢さん、斯う／＼云ふ譯で、明日の晩までに、あ。ん。た。さん。が。行。て。看。病。せ。ん。と、若旦那は死んで仕舞ひますせい」「エー、さうすると、何かい、甚平さん、若旦那が、明日の晩までに妾が行かんと、死んで仕舞ひなさる、ウ、ハ」「コレお嬢さん、あんた泣いてるところの騒ぎぢやおまへんで、今から急いで行けば、明日の晩までには間に合ふんでおますがな、あ。ん。た。さん。大。阪。へ。看。病。に。行。き。ま。へ。ん。か」「甚平さん、妾大阪へ行きたいわ」「イヤ御尤も……」「行きたいけども、お父さんがやつて呉れてやるかな——」「お嬢さん、それを御心配なら申しますが、今もな——、お父さんは、病人が行く氣があるなら、やつてやると仰しやつた、あ。ん。た。さん。行。く。と。仰。し。や。つ。て。下。さ。れ、今から行けば明日の晩までには間に合ふて若旦那は助かるのでおます、何うだす、大阪へ行きたいと仰しやれ」「すると何

か、妾さへ行くといふたら、大阪へ行けるのやなア」「行けるどころやない、大行けでやす」「まあ嬉しいこと、甚平さん妾、大阪へ行きますわ」「エー行きますか——」「行くとも早う行きたい、何をグズ／＼して居なはる、早う行きまよ、甚平さん」「へい……あ。ん。た。は。ん、御病氣は……」「モウ病氣は全然癒つて仕舞ふたわ」「それは結構……」「アノお父つさん……」「コレ／＼、何うした事ぢや、病人のくせに、恁なところへ走つて來て……甚平どん、お前さん、娘を氣狂ひにしたぢやないかな……おもよ、何うした事ぢや」「何うした事ぢやて、明日の晩までに行かんと、若旦那は死んで仕舞ひなさるよつてに、妾大阪へ行きます、お父つさん」「さうか、よし／＼、お前が行くならやつて上げるから……チョット待ちなされ、永らく煩らうて寝て居たのやで、見苦しい装をして行たら不可なよつて、髪も結び、風呂へも這入つて……」「そんな事をして居たら、明日の晩遅うなつたら若旦那は死んで仕舞ひなさる、早う行きませう——、さあ甚平さん、あんた何をして居なさるのや、あんた顔も長いが氣も長い、早うして」「コレハたまらん、さう急いでも、お嬢さん、あ。ん。た。は。病。人。あ。が。り、私。が。負。ふ。て。も。行。き。ま。す」「甚平さん、妾が負ふて上げるは」「えらい勢ひやなあ」「イヤ／＼、チョット待ちなされ、山越えで行くのやよつてに駕籠を雇ひませう」と駕籠を二挺に人足が大ぜい付いて、先の駕籠にはおもよさんが乗りまして、後の駕籠は甚平さんで、駕籠屋さんは皆向ふ鉢巻、えらい勢ひで「ハツ、ホウ、ハツ、ホウ、ハツ、ホ」ヨ、ヨイノ、ヨイとチャント大阪へ來ま